

特定行為看護実践に関する看護師の認識 ー地域医療に焦点を当ててー

研究期間 平成 29 年度

研究代表者名 高崎亜沙奈

はじめに、団塊の世代が 75 歳を迎える 2025 年に向けて、在宅医療等の推進が進められている。「地域における医療及び介護の総合的な確保を推進するための関係法律（2014 年法律第 83 号）により、保健師助産師看護師法（1948 年法律第 203 号）の一部が改正され、看護師が、医師又は歯科医師の作成する手順書により、一定の診療の補助である特定行為を行う研修制度が施行された。

そこで、本研究は、地域医療に焦点を当てて、特定行為看護実践に関する看護師の認識を明らかにすることを目的とした。

調査は 2017 年 4 月から 7 月で、N 県内 4 施設で 11 名の訪問看護師を対象とした。研究デザインは、質的帰納的研究とし、木下が提唱する修正版 Grounded Theory Approach (M-GTA) を用いた。研究の信頼性と妥当性の確立のために、スーパーバイザーからの指導を受けた。

研究結果として、24 個の概念と 7 個のカテゴリーが生成された。特定行為看護実践には、裁量の問題など【特定行為看護実践を阻む要因】があるが、看護師には【目指す看護師像】があり、【患者が本当に求めている看護の探求】をしながら、【他職種との連携強化】に努め【救命のための努力】を行っている。また、今後はさらに【看護師の社会的地位の向上】が期待されている。研修や法整備など、【設備・環境整備の重要性】を国や各施設が認識し改善していくことが重要である。

参考文献等

- 木下康仁. (2011). ライブ講義 M-GTA 実践的質的研究法-修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチのすべて-. 東京: 弘文堂.
- 木下康仁. (2011). グラウンデッド・セオリー・アプローチの実践-質的研究の誘い-. 東京: 弘文堂.
- 厚生労働省. (2010). チーム医療の推進に関わる検討会報告書.
URL; <http://www.mhlw.go.jp/stf/shingi/att/2r9852000000u8qy.pdf> (閲 覧 日 2016. 4)
- 草間朋子. (2009). 日本における看護職の業務拡大の可能性 ナースプラクティショナー教育への取り組み. インターナショナルナーシングレビュー, 32(1), 16-20.